

遠藤原子力委員会委員の海外出張報告について

平成 10 年 2 月 24 日

国際協力・保羅指置課

1. 出張先

インドネシア、タイ

2. 日程

- 2 月 11 日（水） 成田→ジャカルタ
- 12 日（木） スブキ原子力庁長官との会談  
川上大使訪問
- 13 日（金） スルボン原子力研究センター視察
- 14 日（土） ジャカルタ→（シンガポール）→バンコク
- 16 日（月） マナシカーン科学技術環境大臣との会談  
太田大使訪問
- 17 日（火） バドラコム原子力庁長官との会談
- 18 日（水） バンコク→成田

3. 概要

インドネシア（12 日、スブキ原子力庁長官）、並びにタイ（16 日、マナシカーン科学技術環境大臣、及び 17 日、バドラコム原子力庁長官）において、原子力関係の要人等と会談し、今後のアジア地域における国際協力及び「アジア地域原子力協力国際会議」の進め方についての意見交換等を行った。

13 日には、インドネシア、スルボン原子力研究センターを視察した。

### 1. スブキ原子力庁長官との会談（インドネシア）

2月12日、スブキ原子力庁長官と会談を行い、インドネシアの原子力開発計画等に関する意見交換を行った。スブキ長官より、同国の原子力発電所の建設計画に関しては、サイトの条件、環境への影響、パブリック・アクセプタンス（P A）等の問題について、引き続き調査（2年間程度の予定との由）する旨の説明があった。人材育成、パブリック・アクセプタンス（P A）等の分野の協力が、今後とも重要であるとの発言があった。今後のアジア地域の原子力協力の進め方については、アジア地域原子力協力国際会議（I C N C A）等の場で議論していくことが重要との考え方が示された。

### 2. スルボン原子力研究センターの視察（インドネシア）

13日、同センターにある以下の施設を訪問した。

- ・多目的研究炉（出力30Mw t）
- ・燃料・材料試験用ホットセル
- ・放射性廃棄物技術センター

### 3. マナシカーン科学技術環境大臣との会談（タイ）

16日、マナシカーン大臣と会談を行い、タイの原子力開発計画等に関する意見交換を行った。マナシカーン大臣より、原子力発電所建設計画については、フィージビリティスタディを引き続き実施しているが、この問題は国民の理解を得ることが重要である旨の指摘があった。また、アジア地域原子力国際会議（I C N C A）のような国際会議がタイで開催されるとパブリック・アクセプタンス（P A）上、効果があるだろうとの意見が示された。なお、3月3日の第9回I C N C Aへは、ポアンテップ科学技術環境省次官、パドラコム原子力庁長官他が出席し、今後のアジア地域の原子力協力の進め方等について提議していきたいとの表明があった。

### 4. パドラコム原子力庁長官との会談（タイ）

17日、パドラコム長官と会談を行なった。パドラコム長官より、同庁が計画しているオンガラク研究センターの研究炉他の建設計画の現状等について、研究炉（10Mw t）、放射性同位元素生産施設、及び廃棄物管理施設を建設する計画であり、完成は2001年6月の予定である旨説明があった。建設契約は米国、ゼネラル・アトミック社（G A）他と1997年6月6日に総額1.2億米ドルで実施されたが、そのうち59%が米ドル、41%がタイ通貨によるものとされており、最近のタイ通貨下落により、資金手当に問題が生じているとの指摘があった。また、人材育成に対する日本の協力が重要との指摘があった。